

1997 年度評議員会報告

1997 年 10 月 2 日 17:00~19: 55 九州大学六本松地区本館第 1 会議室（福岡市）

出席者：〈北海道〉諏訪正明，堀 浩二，〈東北〉正木進三，〈関東〉立川周二，友国雅章，山崎柄根，林 正美，大場信義，岡島秀治，渡辺泰明，巢瀬 司（自然保護委員長），田中誠二，山根爽一（副会長），〈東海〉阿江 茂，〈信越〉藤山静雄，〈近畿〉中西明德（編集委員長），内藤親彦，吉安 裕，日高敏隆，〈中国〉前田泰生，積木久明，〈四国〉野里和雄，〈九州〉嶋 洪，（前会計監査），山根正気（将来問題検討委員長），上田恭一郎，〈委員会〉森本 桂（日本の昆虫編集委員長），〈本部〉三枝豊平（会長），上宮健吉（庶務），緒方一夫（会計），林利彦（渉外），友国雅章（図書），橋本佳明（編集）

I. 会務報告

1) 庶務：①1997-98 年度の学会幹事（本誌に掲載済み），自然保護委員会（委員長：巢瀬 司），会計監査（多田内 修，高木正見）が通信評議員会で承認された。各支部幹事から自然保護委員の通知があった。②8 月 31 日現在，会員数 1,335 名（名誉会員 7 名，正会員 1,214 名，海外会員 38 名，賛助会員 15 名，団体会員 61 名）。会費 2 年分滞納者 32 名，3 年分滞納者 18 名。なお，4 年分滞納者 7 名は 12 月末日にて退会処分とする。会費納入率は 95.7%。③2 月 15 日付けで第 17 期日本学術会議の会員候補者として第 4 部に上野俊一氏（推薦人：倉橋弘氏，推薦人予備者：友国雅章氏），第 6 部に三橋 淳氏（推薦人：佐々木正己氏，推薦人予備者：北野日出男氏）を日本昆虫学会から推薦した。7 月 17 日付けで日本学術会議の会員に推薦すべき者として三橋 淳氏が学術会議から通知された。7 月 30 日付けで学術会議第 4 部会員の星 元紀氏から「動物科学研究連絡委員会」の連絡委員を，8 月 15 日付けで第 6 部会員の三橋 淳氏から「植物防疫研究連絡委員会」の連絡委員の推薦依頼があり，前者に倉橋 弘氏，後者に北野日出男氏をそれぞれ推薦し，承認された。④7 月 26 日付けで昆虫学会福岡大会の講演者で年会費未納者 14 名と非会員 11 名に会費納入と入会を督促し，その後全員の会費納入と入会手続きがあった。⑤7 月 28 日付けで会費 4 年間滞納者の会員へ督促状を送付した。

2) 会計：1997 年度中間報告がなされ，予算の 48% が執行されていること，平成 9 年度科学研究費補助金「研究成果公開促進費」の交付内定の通知があり，交付予定額が 1,720 千円となり，前年度（2,090 千円）より減額されたことの報告があった。また，1990 年以降の決算を分析して，収入が支出を上回り，繰越金が黒字で推移していること，1996 年からは会誌直接費（印刷費）の節約が計られてきた結果，会の財政が回復して繰越金の増加に大きく寄与している現状が説明された。

3) 渉外：①学術会議第 4 部動物研連関係の報告。第 16 期最後の動物科学研連会議（加納六郎委員）が 7 月 17 日に開催され，会長報告，各委員報告のあとガイアリスト 2000 プロジェクトとサイエンスミュージアム構想などについて 17 期への申し送り事項が協議された。第 16 期最後のシンポジウムが日本動物学会関東支部との共催で 7 月 12

日に早稲田大学で開催され、公開シンポジウム、“生き物はどのように世界を見ているか—さまざまな視覚とそのメカニズム” 蟻川謙太郎氏他 5 名の講演があった。②第 16 期第 4 部付置小委員会のサイエンスミュージアム推進小委員会は第 17 期に引き継がれる予定であり、動物科学研連でもこの件について、スミソニアンや大英博物館のような自然史博物館の設置を目指し討議を継続するよう申し送りされた。③第 17 期学術会議委員会には 5 月 15 日に推薦人会議で日本動物学会から推薦された東京工業大学 星元紀教授が任命された。④自然史学会連合関係第 3 回自然史学会連合のシンポジウム“動物たちの過去、現在、未来—絶滅の動物学—”が 10 月 25 日に国立科学博物館分館で開催予定。演題は以下のとおりである。「中生代の環境変動と恐竜などの大量絶滅」平野弘道（早稲田大学教育学部）；「ブーストック計画—動物園における種保存計画から」中川志郎（東京動物園協会）；「アホウドリはよみがえるか」長谷川博（東邦大学理学部）；「地球規模で広がる海洋汚染」宮崎信之（東京大学海洋研究所大槌臨海研究センター）；「人類の起源と将来」馬場悠男（国立科学博物館人類研究部）。なお、学術会議第 6 部の活動報告については、すでに三橋会員より本誌 65(3): 672-674 に詳しく報告されている。

4) 図書：①フランクフルト・ブックフェア '97（1997 年 10 月 15 日～20 日）に“Jpn. J. Ent.”の出品を依頼した。②「昆虫」のバック・ナンバーの廉売には、合わせて 30 件余の注文があり、9 月上旬に発送を終えた。総額 609,600 円（1,892 部）の売り上げがあった。まだ在庫が多いので、福岡大会後に短期間の追加受注をしたあと、国内の主要公共機関や海外交換先への無料配布を実施する予定である。③国立科学博物館に寄贈した本会の交換雑誌に関する書誌情報は、学術雑誌総合目録の次期改訂版（1999 年出版予定）に科博の所蔵図書として収録される予定である。また、国立科学博物館のホームページ (<http://www.kahaku.go.jp>) の中でも検索できる。

5) 各種委員会報告：編集委員会、自然保護委員会、日本の昆虫編集委員会および将来問題検討委員会から別記の通りの報告があった。

II. 議事

1) 1996 年度決算と会計監査：別表のとおり承認された。

2) 1998 年度予算：別表のとおり承認された。

3) 1998 年度大会は近畿支部で引き受けることを日高敏隆代表評議員が表明され、また、1999 年度大会を四国支部で引き受けることを野里和雄代表評議員が表明され、いずれも承認された。

4) 次期編集委員会：次期編集委員会は事務局を九州大学比較社会文化研究科地球自然環境講座内におき、編集委員長に畠 洪氏、編集幹事に高木正見、矢田 脩の両氏が承認された。なお、あと 1 名の編集幹事と編集委員若干名は次期編集委員長の推薦により後日の通信評議員会で決定されることが承認された。

5) 次期日本の昆虫編集委員会：編集委員長に森本 桂氏の再任、編集委員に紙谷聡志、倉橋 弘、宮武頼夫、野村周平、山根正気の各氏の再任と、新たに大和田 守氏の就任が承認された。

6) 学会の将来問題について：将来問題検討委員会の報告に基づいて審議した結果、

緊急の課題として次の2点を評議員会の提案として総会に附託することが承認された。

(1) 学会誌の改革: (a) 現在の学会誌「**昆蟲 (Japanese Journal of Entomology)**」を、英文誌と和文誌に分割する。 (b) 英文誌の誌名、両会誌のスタイル、編集に係わる方針、その他の詳細は将来問題検討委員会の下にワーキンググループを設けて、ここで早急に結論を出し、評議員会（書面）の承認を受ける。ただし、和文誌は現在の誌名「**昆蟲 (Japanese Journal of Entomology)**」とその巻号を継承する。 (c) 会誌名の変更は本会会則の変更を必要とする。会則変更は第3条第2項について、会誌名“「**昆蟲 (Japanese Journal of Entomology)**」”の前に、上記の評議員会で承認される英文誌名を「」でくくって挿入することである。これについて総会で承認を受け、会則の改正とする。 (d) 会誌の発行回数は英文誌は年4回、和文誌は最低年2回とする。 (e) 和文誌の内容は従来の和文論文、会記、大会案内などに加えて、英文誌掲載論文の和文抄録、総説、及びニュースレター的内容などを含めるものとする。 (f) 会誌の二分割に伴う編集出版に関わる費用が、来年について予算を超過した場合は、予備費及び、それ以上の超過については学会基金から補填する。 (g) これらの事項の実施時期は、次年度からとし、当面編集事務は2誌ともに次年度の編集委員会が担当する。 (2) 学会賞について: 学会賞については、将来問題検討委員会の報告を了承し、当該委員会の下にワーキンググループを設けて、早急に結論を出し、次年度大会にその結果を報告し、必要に応じて承認を得る。

7) 自然保護委員会の出版計画: 「昆虫類の多様性保護のための重要地域第1集」が明年夏を目標に、会員内外からの注文によって出版する計画が承認された。なお、巢瀬委員長から多数の会員諸氏のご協力をお願いしたいとの要請があった。

8) 会員名簿作成の計画: 1993年の名簿の刊行以降、名簿の発行がなされていないので、執行部では来年3月末日発行を目標に会員名簿の改訂出版を行うことを評議員会に提案し、承認された。承認された計画の内容は、名簿に電子メールアドレスを加え、また新郵便番号制度に対応して新しい郵便番号を採用すること、会員名簿調査カードの送付、注文、印刷、発送の全てを学会独自に行い、将来的に別の用途にも利用しうる文書情報としてファイル化して保存、管理すること、価格は前回と同額の1部1,000円（送料別）に設定すること等である。なお、名簿作成に際しては完成までの期間において会員名簿刊行会を設立し、以下の各氏が委員に就任し、作成に係わる全ての事項について協議し、適切な計画によって名簿を発行することが承認された。会員名簿刊行会委員: (委員長) 三枝豊平, (委員) 湯川淳一, 嵐 洪, 緒方一夫, 上宮健吉 (作成責任者)。なお、会員名簿は販売見積もり部数が650部に達しない場合には赤字が見込まれるため、万一の場合には学会予備費から赤字分を補填することや、余剰金は当該年度の会計に組み入れること、注文部数が少ない場合には名簿に広告を掲載すること、関連学会会員にも同価格で販売することなどの案が承認された。なお、完成した名簿情報のファイル管理と維持について次のことが承認された。 (a) 名簿のファイル情報の管理は庶務幹事が行い、次期の庶務幹事に継承する。以後の注文も庶務幹事が処理する。 (b) 名簿のファイル情報は学会に帰属するものとし、保存ファイルの貸与やコピーの供与は評議員会の承認を得るものとする。 (c) 各支部から要請があれば支部単位の名簿をフロッピーとして実費で提供する。

(d) 会員の名簿上の記述に変更(会員異動情報)があった場合, 庶務幹事は内容を加筆修正することができる。ただし, これは以後の庶務幹事の責務とはしない。(e) 名簿は昆虫学会と無関係の名簿業者には販売しない。

9) 学会のホームページ開設の計画: 最近の諸学会ではホームページを開いて会員間のコミュニケーションを機能的に行い, 広範な会員を対象とした通信や社会的な対応などを行っているが, 本会でもホームページを開く方向で以下の執行部提案が承認された。

(a) ホームページ作成委員会を設立し, 具体的な計画を立案し, 明年度1年間を目標に委員の時間の許せる範囲で開設を進めること。(b) サーバサイトは学術情報センターにある Academic Society Home Village を予定している。(c) ホームページ作成委員会の構成として, (委員長): 三枝豊平(学会長), (委員): 秋元信一, 緒方一夫, 粕谷英一, 上宮健吉, 三中信宏, 野村周平, 沢田佳久, 吉澤和徳の各氏が承認された。なお, ホームページの開設は明年(1998年)1月1日を目標としており, インターネット <http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/entsocj/> の URL アドレスにて参照できる見込みである。

(庶務幹事, 上宮健吉)

編集委員会報告

10月2日(13:30~14:30)九州大学六本松地区本館第3会議室において中西明德(編集委員長), 林 正美, 岡島秀治, 大谷 剛, 三枝豊平, 高橋史樹, 山根正気の各委員と 嵐 洪(次期編集委員長候補), 橋本佳明・八木 剛(編集幹事)の各氏が出席して開催された。

(1) これまでの編集経過と件数: 1996年度受付は原著論文77編, 短報13編, 1997年度は原著論文60編, 短報11編である。現在65(3)に掲載予定分を含めて原著論文は査読修正中45編, 受理済未掲載18編, 短報が査読修正中4編, 受理済未掲載3編となっている。これらを引き続き65(4)に掲載した場合, 手持ちの原稿が不足するので, 積極的な投稿をお願いしたい。

(2) 現在の編集方針は次の通りである。(a) 各号に登載する論文は受理の早い順に必要な数を採っている。短報はこの限りではない。但し, 同一著者の論文は同一号には1編とする。(b) 英文と和文を切りわけ, 各号の前半に英文の論文と短報を, 後半に和文の論文と各種記事を載せている。(c) 英文原稿はI: 生理, 生態, 遺伝等に関する論文と, II: 分類, 形態, 生物地理等に関する論文の2分野にわけ, I, IIの順に前から載せている。各々の分野の中では受理順に並べている。短報に関しては, 現在のところIIの分野が中心だが, できるだけ後半(和文の前)に集め, 受理順に並べるよう心がけている。

(3) 本編集委員会で検討し, 評議員会に提案したい事項は以下の通りである。①会誌の英文誌化。そのための和文誌の扱いとして, 年間4冊の英文誌と1冊の和文誌, あるいはニュースレターの発行, あるいは年間3冊の英文誌と1冊の和文誌, あるいはニュースレターの発行が考えられる。いずれも2種類の会員を作る必要はない。②上記の英文誌化にともなう英文校閲の原則化。英文誌化のためにはより厳密な英文校閲が必要とな